

機関誌ユネスコ1月号を発行しました

機関誌「ユネスコ」2022年1月号（1173号）を発行しました。

本号の表紙は、「ユネスコ世界寺子屋運動」創設のきっかけとなったマイケル・ジャクソンさん初来日の際のエピソードを掲載。また、毎年多くの方にご協力いただいている「書きそんじハガキ・キャンペーン」を特集し、2021年の受付ハガキ枚数の報告や全国で行われた回収活動を紹介しています。そのほか、アフガニスタンの現状、日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪の報告、「災害子ども教育支援」創設についてなど充実した内容です。ぜひ紙面をご覧ください。

紙面のダウンロードはこちらから↓

https://www.unesco.or.jp/pdf/unesco/2022_01.pdf

2022年1月1日発行(1, 4, 10月の1日発行・年3回) 通巻1173号

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization
日本ユネスコ協会連盟

2022.1
vol. 1173

ユネスコ・コ・アクション チャリティーオークション
PARIS

マイケル・ジャクソンさんの寄付でスタートした
「ユネスコ世界寺子屋運動」

それは1987年夏のことだった。一本の電話が、当時私が在職していた日本ユネスコ協会連盟事務局に入った。マイケル・ジャクソン関係者から「この秋、日本での初公演にあたって、マイケルがユネスコ運動に協力したいといっている」と、ひとつはマイケル愛用品提供によるチャリティー・オークション、もうひとつはマイケルの肖像入りゴールド・メダル発行の許諾、それらの収益金全額寄付の申し出だった。何の見返りも要求せず、その基金にマイケルの名を冠することさえ拒み、ただ基金の使途は「学ぶ機会に恵まれない途上国の子どもたちのために」の言葉を残して、マイケルは日本をあとにした。

私たちはこの基金をシードマネーに、1989年、「ユネスコ世界寺子屋運動」をスタートした。日本滞在中、何日が行動をともした私たちが驚いたのは、少年のように無垢で繊細、含羞に満ちたマイケルの実像であった。湘南海岸を走る車の中だったか「あなたはなぜ寄付先に民間ユネスコを選んできたのですか？」と質問した。ようやく聞き取れるほどの小さな声で「ユネスコの支援活動がギフトでなくCo-Actionだったから。その理念に共感したから」とマイケルの答が返ってきた。Co-Operative Action略してCo-Action。支援する側も受ける側も、同じ地平に立つてともに行動する。これがユネスコ精神そのものだった。

差別と貧困を平和と共生に変えていくことを、その音楽活動を通して訴えつけたマイケル。「もう見過ごしてはいけない 世界で起こっていることを、僕たちが変えていかなくては 僕たちにはそれができる筈だ」と「We are the world」でマイケルは絶唱している。

原花珠樹氏(日本ユネスコ協会連盟 当時・事務局長) 巻頭より抜粋
出典：鎌倉ユネスコ協会 会報(2009年9月1日発行)

CONTENTS

1 特集：書きそんじハガキ・キャンペーン

3 会長新年挨拶

4 TOPICS

●アフガニスタンの現状

●第77回 日本ユネスコ運動全国大会in大阪

●災害子ども教育支援 創設

9 活動報告

●ブロッコ別 ユネスコ活動研究会

●アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

●未来遺産運動

●日本ユネスコ国内委員会 関連報告

13 会議報告

お知らせ・募集